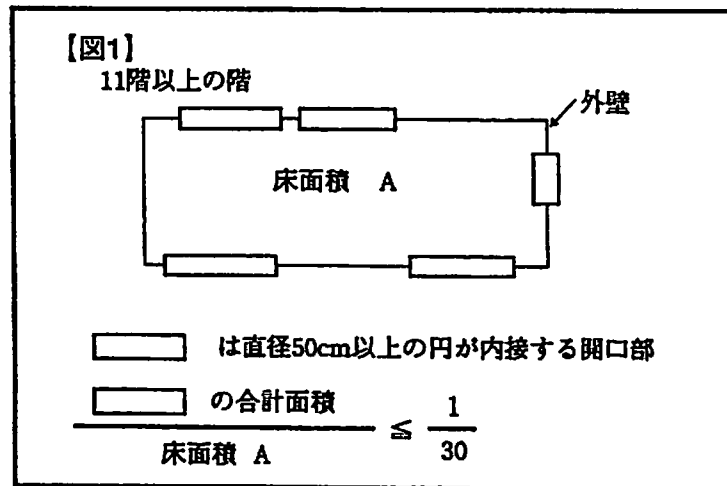


無窓階判定の考え方について

◎ 消防法施行規則第5条の2に規定している無窓階とは、建築物の地上階のうち、避難上又は消火活動上有効な開口部を有しない階をいう。なお、避難上又は消火活動上有効な開口部を有しない階とは次のとおり。

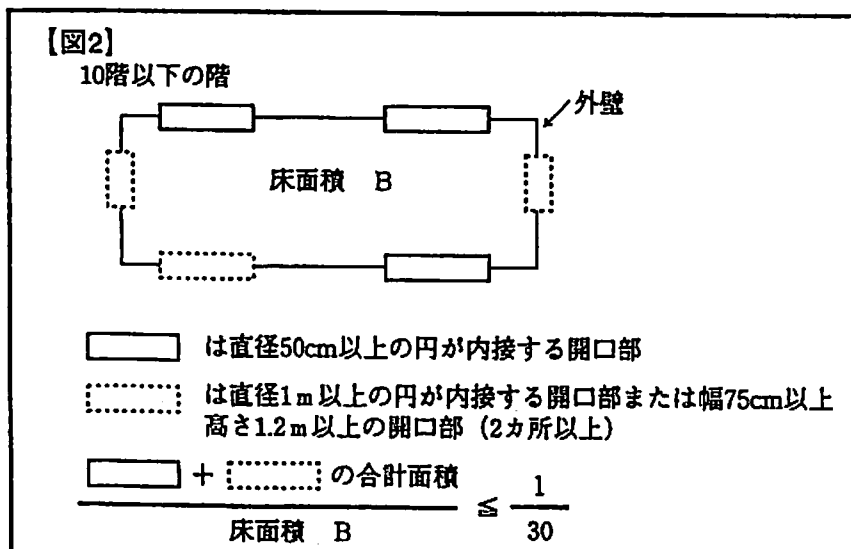
[11階以上の階の場合]

直径50センチメートル以上の円が内接することができる開口部の面積を合計した面積が、当該階の床面積の1/30以下の階（具体的には図1のように計算します）



[10階以下の階の場合]

直径1メートル以上の円が内接することができる開口部又は幅75センチメートル以上、高さ1.2メートル以上の開口部が2カ所以上、かつ、これらの開口部と直径50センチメートル以上の円が内接することができる開口部の面積との面積を合計し、その合計面積がその階の床面積の1/30以下の階（具体的には図2のように計算します）



〔避難上及び消火活動上有効な開口部と認められる条件〕

ア 床面から開口部の下端までの高さは、1.2メートル以下であること

イ 道又は道に通じる幅員1メートル以上の通路その他の空地に面していること(11階以上の階の場合は適用しない。)

ウ 開口部は、格子その他の内部から容易に避難することを妨げる構造を有しないものであり、かつ、外部から開放し、又は容易に破壊することにより進入することができるものであること

エ 開口のため常時良好な状態に維持されているものであること

◎ 外部から開放し、又は容易に破壊することができる開口部として取り扱うことができるガラスは、次表のとおり。

種 別	ガラスの厚み	クレセント付 開口部	はめ殺しの 開口部
<ul style="list-style-type: none"> ・ フロート板ガラス(JIS R 3202) ・ 腐き板ガラス(JIS R 3202) ・ 型板ガラス(JIS R 3203) ・ 熱線吸収板ガラス(JIS R 3208) ・ 熱線反射ガラス(JIS R 3221) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6mm以下のもの 	○	○
<ul style="list-style-type: none"> ・ 強化ガラス(JIS R 3206) ・ 耐熱板ガラス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5mm以下のもの 	○	○
<ul style="list-style-type: none"> ・ 網入り板ガラス(JIS R 3204) ・ 線入りガラス(JIS R 3204) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6.8mm以下のもの。ただし、破壊作業のできる足場が設けられている開口部にあっては、10mm以下のもの 	○	—
上記各種の板ガラスを使用するもの <ul style="list-style-type: none"> ・ 複層ガラス(JIS R 3209) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記内容(網入り板ガラス及び線入り板ガラスは、厚さ6.8mm以下のものに限る。)の例により設けるもので、重ねる板ガラスの数が2のもの 	○	△ ※網入り・線入りガラスを使用するものは不可
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合わせガラス(JIS R 3205) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「合わせガラスに係る破壊試験ガイドライン」により避難上又は消火活動上有効な開口部として取り扱うことができるもの 	○	—

◎ 外部から開放し、又は容易に破壊することができる開口部として取り扱うことができるシャッターのうち、主なものは次のとおり。

ア 避難階に設けられた鋼製のもの(ステンレス製のものを除く)で、スラット厚さが0.8ミリメートル以下のもの

イ 屋内から手動によって、屋外からは水圧等によって開放できるシャッターで消防庁通知に定める基準に適合するもの

以上